

都農町旧10号線沿いの活性化 & 寺迫地区のコミュニティ存続

宮崎大学 地域資源創成学部1年 1班

都農町 中心市街地

令和4年12月現在の都農町の人口は9698人で、1万人を切った。用途地域内に人口の4割、都市計画区域内に人口の約6割が集中するコンパクトな都市が形成されている。現在中心市街地活性化の推進が行われている中、実習で旧10号沿いを探索・調査したところ、いくつかの課題を見つけた。そこで、河野町長や役場の方、町民の方へのヒアリングで得た情報を元に、今の都農町に必要なことは何なのか考えた。

調査方法

2022年12月16日(金)

- ・講話
河野正和町長、都農町役場まちづくり課、都農町役場建設課
- ・フィールドワーク(都農神社周辺~上町橋付近)
- ・町民6名にヒアリング調査
- ・つの未来財団の方とのワークショップ



都農神社



ふれあい通りから見た道の駅

現状

・都農神社

正月と七五三の時期、祭りが行われる8月に来客数が増加している。集客方法として、公式LINEやFacebookの広報活動に力を入れていた。さらに都農神社では、神社の「神の石」といわれるものを道の駅に設置していた。これにより道の駅から神社への誘導を行っているという。また、神社に隣接していた駐車場の利用可能台数は41台で、そこには飲食店も一店併設されていた。

・道の駅

都農インターチェンジから車で5分、また国道10号線沿いにあり、東九州自動車道が全面開通したことで、遠方からのアクセスも容易である。平成25年7月31日に、オープンした道の駅つのでは、町内生産者の地元産のフルーツや野菜が販売されている。道の駅を経営・産業のエンジンとして設立し、税収を増加、町民の所得増加へと繋げた。駐車場として、大型車用が10台、普通車用が148台、身障者用が2台(屋根付き)設置されている。

・マーケット跡地

赤木家前にあるマーケット跡地を中心として、空き地を利用したイベントを考えている。旧10号の道路は、人が歩くに当り十分な歩道が無いので、安全の道だと言うことが出来ない。1月29日(日)にはつの未来財団や町内の企業が協力し、「みちくさ市」が開催された。今後毎月開催し、企画や集客に関する実証実験としての役割を担う予定である。

課題

・都農ワイナリー~道の駅~都農神社の導線確保

それぞれの利用者が派生して、より多くの利用者を確保するために都市計画マスタープランに基づいた導線づくりが必要である。

・マーケット跡地の利活用

赤木家前にあるマーケット跡地を活用して、旧10号の活性化を図る必要がある。

1班が考える解決策

都農町ぶらりスタンプラリー×みちくさ市

①さるき回ろう! 都農スタンプラリー

マーケット跡地を活用した「みちくさ市」の開催日の1、2週間前から開始し、みちくさ市当日にスタンプの数に応じて景品をゲットできる。景品は町内飲食店や道の駅、都農ワイナリーで使用可能な割引券など。スタンプは主に10号線沿いにある飲食店や空き地。(空き地については③参照)

②フォトスポットづくり

空き地にただスタンプを置くのではなく、空き地をフォトスポット化する。空き地に設置する顔はパネル作りやウォールアートを、「みちくさ市」の体験型イベントの一部として行い、小中学生がフォトスポットを作り出す。制作したものは旧10号線沿いにある空き地に設置していく。

さるき回ろう! 都農スタンプラリー	
開催日	2022.12.12~2023.1.15
スタンプ設置	飲食店
景品	1万円相当の地場産品(100名)



- ①道の駅
- ②一之宮食堂
- ③都農神社
- ④肉のくろぎ
- ⑤赤木家
- ⑥さくや菓子舗
- ⑦みちくさ市
- ⑧BUNMEI
- フォトスポット

都農町 寺迫地区

都農町の北東側、日向市との境界付近に位置する寺迫地区では、主に住民の方に寺迫地区での生活についてヒアリングを行った。その中で、以前のような地区イベントや行事があまり開催できずにいるという現状や、コミュニティの希薄化が見られることを知った。長福寺や自治会長の方、住民の方へのヒアリングで聞いたことを踏まえた上で、寺迫地区のコミュニティについて出来ることはないか考えた。

調査方法

2022年12月17日(土)

- ・ヒアリング調査
長福寺の副住職、寺迫地区公民館長兼自治会長、町民4名



長福寺



長福寺



寺迫の眺め



寺迫水神の碑

現状

・地区活動

親子会がクリスマス会や子供の卒園、卒業、入学等のお祝いや、町主催の高齢者と一般の方で行う健康教室で公民館が利用されている。寺迫地区には夏祭りや冬祭りがあり、昨年2022年は12月16日に冬まつりが開催された。夏祭りは、今後規模を縮小して開催する計画している。かつてはグランドゴルフ大会や寺迫地区大運動会が開催され、多くの地区住民が集まっていたものの、コロナ禍の影響で開催できずにいる。

・タブレット使用

町民の方へのヒアリングによると、タブレットは頻繁に使用するものの、電波が悪いと感じることが頻繁にあるようだった。また、故障時のマニュアルがあればなお良いという方もいた。

・地域資源

文化的活動(駄祈禱やお日待)、そば

・交通手段

現在は軽トラなど自家用車で移動を行っているが、免許返納後の交通手段についてはまだ考えていないという方や、福祉バスやタクシーの利用を考えている方がいた。

課題

・地域コミュニティの機能低下

- 防災時の救済措置△
- 公民館など公共施設の持続的な維持管理が難航

・電波(光回線)の整備

→なぜ寺迫地区で電波が悪いと感じることが多いのかを調査し、改善する必要がある

・免許返納後の生活

- 食物は農家間で交換しているが、日用品の入手方法がない
- 買い物や通院をするための移動手段が不明確
- 返納前に考えておく必要がある

1班が考える解決策

○そば打ち体験教室

自治会のイベントの1つとして、寺迫地区でとれたものを使ったそば打ち体験教室を行う。対象者は寺迫地区に住む人。公民館長の海野さんのお話の中で、寺迫地区はそばが多く栽培されているというお話があった。都農町には尾鈴庵、一ノ宮食堂、一の茶屋、駒迫など、そばを提供している飲食店がある。協力して頂き、寺迫地区でとれたものでそばを作る。

寺迫地区では、実習時のヒアリングでコロナ禍でコミュニティの機能低下が課題の1つになっていると学んだ。次第に規制緩和が進む中、改めて地区活動を行うことで、コミュニティの存続や自治会のイベントによる交流を図る必要がある。

参考文献

- 1) 都農町観光協会(2022.11)『都農町まちぶらりスタンプラリー』<https://tsunokanko.blog.fc2.com/blog-entry-235.html>
- 2) つの未来財団(2023.01)『1月29日、商店街の空き地で花とみどりを楽しむ「みちくさ市」開催!』<https://tsunozaidan.com/>
- 3) 百年の誠実。都農町(2021.04)『石臼挽手打ちそばの世界は底知れず 尾鈴庵』https://life-tsuno.jp/tsuno_magazine/72/



寺迫地区のそば畑